

保育における相互作用の意義 (I)

一父・母・幼稚園教諭の三者間にみられる教育意識のずれについて

舟 木 哲 朗 (島根大学教育学部)

問 題

教育界で近年問題にされていることのなかに、心身の発達のみずみと、非行と、学力の三つがある。これらのものは全く無関係とは考えられないが、非行や学力の問題が中学生を中心に発生しているのに対して、発達のみずみの問題は早くから発生しており、幼児期にすでにその兆候がみられる。

これらの原因については、今日必ずしも明らかになっているわけではなく、おそらく多くの要因の複雑な組み合わせによるものと考えられるが、そのなかでも、家庭における親子関係と夫婦の関係、それと、保育所や学校(幼稚園を含む)における教育との間の矛盾などを無視することはできないであろう。そしてまた、これらのことに問題があるとするなら、その問題を明らかにすることによって、親と保母や教師の態度を改めることの可能性が期待できるであろう。

親・保母・教師などの子どもに対する態度については、今まで、放任型・干渉型・過保護型・民主型の、四つの型について論ぜられることが多かった。これは、たしかに一つの立場である。しかし、このような見方は、具体的に子どもに接するときの態度を一般的に論じているのであって、子どもに対して何を求めて何を求めないかという具体的な内容を論じているのではない。

そこで、今われわれが問題にしようとしているのは、子どもに対する接し方の四つの型についてではなく、子どもに対して何を求め何を求めないかということについての、父親、母親、保母や教師の三者間にみられる意識のずれについてである。このことを問題にしようとする理由は次のとおりである。

子どもに対する態度(放任型・干渉型・過保護型・民主型)について、父親、母親、保母や教師の三者が一致したとしても、子どもに対して何を求め何を求めないかという具体的な内容に一致が

なければ、教育上好ましくない結果をもたらすことが想像される。このことについて、教育論としては今までも不問に付されているわけではない。しかし、三者の間に不一致があるのか、また、あるとすれば何がどのように不一致なのかということについては、今までほとんど明らかにされていない。

以上のことにかんがみて、この研究では、幼稚園児をもつ父親と母親と、それらの幼児の学級担任である幼稚園教諭の三者間にみられる教育意識のずれを明らかにすることを目的としている。なお、この研究では、三者間の教育意識のずれを問題にするものであって、その内容についての価値判断には触れないことにする。

(備考)

この研究は三か年計画の第1年次のもので、第2年次および第3年次の研究に発展させるための基礎資料を得るために行なうものである。

方 法

この研究は、質問紙法により、次にあげる方法に従って行なった。

1. 質問紙の作成

(1) 幼児の発達と教育の内容に関するもの

まず、幼児の発達と教育の内容に関する項目を、身体的・知的・情緒的および性格的・社会的の4分野についてとりあげ、それらのなかから、とくに重要と考えられるものを選び、さらに、両親や教師が容易に答えることができるものに限定し(これは結果の信頼性を考慮してのことである)、最後に、各分野とも8項目にまとめた(これは分野ごとの比較をする場合のためである)。

なお、各質問に対して、回答はア～エの四つの選択肢を用意した。これらの選択肢はそれぞれ、幼児に対して求める程度の強いものから弱いものへの順に、ア・イ・ウとなっており、エは無関心

の場合の選択肢である。ただし、質問番号の 8 だけは異質の選択肢になっている。

(2) 今日の家庭教育で問題になりそうな事項に関するもの

今日の家庭教育でしばしば問題になる可能性のある事項をとりあげ、それらのなかからとくに意見の分かれそうなものを選び、さらに、両親や教師が容易に答えることのできるものに限定して 8 項目にまとめた。

各質問に対して、回答はア～オの五つの選択肢を用意した。これらの選択肢は、程度の差よりもむしろ質の違いをみることを中心とするものであり、(1)の場合とは観点が違う。

以上のようにして作成した質問紙は次のとおりである。

0-1 回答者ご自身について、次のア～オのなかの該当の記号を○でかこんでください。

- ア 父
- イ 母
- ウ 父に代わる保護者(男)
- エ 母に代わる保護者(女)
- オ 幼稚園の教員(担任)

0-2 お子さんの年齢(昭和55年4月1日現在)について、次のアまたはイのうちの該当の記号を○でかこんでください。(幼稚園の先生は担任の学級についてお答えください)

- ア 4歳(年少組)
- イ 5歳(年長組)

0-3 お子さんの性別について、次のアまたはイのうちの該当の記号を○でかこんでください。

(幼稚園の先生は答えなないでください)

- ア 男
- イ 女

※第2 ページから6 ページまでは、次の要領で答えてください。

質問番号 1～32

それぞれの質問ごとに、ア～エの4つの答えがあります。このなかから「自分はこう思う」というものをそれぞれ1つだけ選んで、その記号を○でかこんでください。

質問番号 33～40

それぞれの質問ごとに、ア～オの5つの答えがあります。このなかから「自分はこう思う」というものをそれぞれ1つだけ選んで、その記号を○でかこんでください。

- 1 もしお子さんに食べ物のすききらいがあれば、どのようにしたいと思われませんか。
- ア きらいな物でも強制的に食べさせる。
 イ よくわかるように話してやって、偏食しないようにさせる。
 ウ 気にしないで、すきをよりにさせる。
 エ 考えたことがない。
- 2 お子さんの安全(とくに交通安全)について、どのように考えられますか。
- ア 幼児期は、おとなのつきそいがなければ外出させない。
 イ 安全についてよく指導し、ひとりで外出できるようにさせる。
 ウ 気にしないで、自由にさせる。
 エ 考えたことがない。
- 3 お子さんのからだの運動について、どのようにしたいと思われませんか。
- ア やる気がなくても必ずさせる。
 イ 運動がたいせつなことを話してやって、自分で努力させる。
 ウ 自由にまかせる。
 エ 考えたことがない。
- 4 お子さんにさせる運動の種類について、どのように考えられますか。
- ア たくさんの種類の運動をさせる。
 イ 必ずしもたくさんの種類を考えないが、運動の種類がかたよらないようにさせる。
 ウ 自分のすきな運動をさせる。
 エ 考えたことがない。
- 5 お子さんの運動のじょうず、へたについてどのように考えられますか。
- ア じょうずにできるように練習させる。
 イ じょうずにできるくふうをさせる。
 ウ じょうず、へたを問題にしない。
 エ 考えたことがない。
- 6 お子さんのからだの運動について、あなた自身はどのようにしたいと思われませんか。
- ア いっしょに運動する。
 イ 指導するが、運動は子どもだけでさせる。
 ウ かかわりをもたない。
 エ 考えたことがない。
- 7 お子さんの手先の器用さについて、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 手先が器用になるように、積極的に練習させる。
 イ なるべく手先を使うようにさせる。
 ウ 気にしないで、自由にさせる。
 エ 考えたことがない。
- 8 お子さんに刃物(ナイフなど)を使わせることについて、どのように考えられますか。
- ア うまく使えるようになるまで、積極的に練習させる。
 イ ナイフは使用を禁ずる。
 ウ 自由にまかせる。
 エ 考えたことがない。
- 9 ひらかなを読むことについて、お子さんに対してどのようにしたいと思われませんか。
- ア 小学校入学までには必ずおぼえさせる。
 イ 文字に興味をもたせることを考えるが、無理はしない。
 ウ しぜんに読めるようになるのを待つ。
 エ 考えたことがない。

- 10 ひらかなを書くことについて、お子さんに対してどのようにしたいと思われませんか。
- ア 小学校入学までに必ず書けるようにする。
- イ 書くことに興味をもたせることを考えるが、無理はしない。
- ウ しぜんに書けるようになるのを待つ。
- エ 考えたことがない。
- 11 簡単な算数（一けたのたし算・引き算）について、お子さんに対してどのようにしたいと思われませんか。
- ア 小学校入学までに必ずできるようにする。
- イ 数に興味をもたせることを考えるが、無理はしない。
- ウ 自由にまかせる。
- エ 考えたことがない。
- 12 お子さんのことばづかい（敬語法など）についてどのようにしたいと思われませんか。
- ア 正しいことばづかいをするように、きびしくしつける。
- イ きびしいしつけはしないが、ことばづかいに関心をもたせる。
- ウ しぜんに身につくのを待つ。
- エ 考えたことがない。
- 13 お子さんの生活に必要な知識を得させる方法を、どのようにしたいと思われませんか。
- ア なるべく多くの知識をことばで教え、おぼえさせる。
- イ 必要最少限度のことは、ことばでも教えるが、なるべく自分の頭で考えさせたり、実際にやってみさせたりする。
- ウ しぜんに身につくのを待つ。
- エ 考えたことがない。
- 14 物を作る活動でお子さんが作り方にゆきづまったら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 能率よくできるように作り方を教える。
- イ 作り方を教えることもあるが、むだやまわり道をして、なるべく自分でくふうさせるようにする。
- ウ 指導や助言はしない。
- エ 考えたことがない。
- 15 幼児期における知的な教育の内容や程度について、どのようにお考えですか。
- ア 幼稚園修了までには、小学校入学当初の内容や程度の教育をする必要がある。
- イ 本来の幼稚園教育の範囲内で必要な知的な教育をすれば、とくに小学校を意識する必要はない。
- ウ 幼児期には知的な教育を考える必要はない。
- エ 考えたことがない。
- 16 おとなと幼児とは、ものの考えかたに違いがあります。このことについて、どうすればよいと思われませんか。
- ア 早くおとなの考えかたがわかるように教える。
- イ 豊かな経験を与えながら、しだいにわかるようにさせる。
- ウ そのままでよい。
- エ 考えたことがない。
- 17 お子さんがひどく乱暴だったら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 乱暴な行為を禁止する。
- イ 乱暴をしないように話してやる。
- ウ 幼児の乱暴は気にしない。
- エ 考えたことがない。

- 18 お子さんに残忍な行為があったら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 残忍な行為は禁止する。
- イ 残忍な行為をしないように話してやる。
- ウ 幼児の残忍な行為は気にしない。
- エ 考えたことがない。
- 19 お子さんがおとなし過ぎるようでしたら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 積極的な指導によって活発に活動させる。
- イ 活発な活動をするように話してやる。
- ウ おとなしいままでよい。
- エ 考えたことがない。
- 20 もしお子さんが劣等感をもっていたら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 積極的な指導によって子どもの長所を伸ばす。
- イ 明るいふんい気のなかで育てる。
- ウ 劣等感がなくなるのを待つ。
- エ 考えたことがない。
- 21 もしお子さんが極端に根気がないようでしたら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 積極的な指導によって物事を最後までさせる。
- イ その子の好きなことや得意なことに熱中させる。
- ウ 幼児期に根気がないのは気にしない。
- エ 考えたことがない。
- 22 もしお子さんが極端なあまえんぼうだったら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア あまえを許さない強い態度をとる。
- イ あまえすぎないように話してやる。
- ウ 気にしないでそのままにしておく。
- エ 考えたことがない。
- 23 もしお子さんがよくすねるようでしたら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア すねることを許さない強い態度をとる。
- イ すねる原因を聞いたうえで、すねることはよくないことを話してやる。
- ウ 気にしないでそのままにしておく。
- エ 考えたことがない。
- 24 もしお子さんにおどおどする傾向があったり人の顔色をうかがう傾向があったりしたら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 強くたしなめる。
- イ よく話し合い、安心するよう話してやる。
- ウ 気にしないでそのままにしておく。
- エ 考えたことがない。
- 25 自分のことは自分でする習慣を身につかせるために、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 手をかさないできびしくしつける。
- イ よく説明して、自分でさせるようにする。
- ウ 自分でできないことがあれば手をかしてやりながら、なるべく早く自分でできるように指導してやる。
- エ 考えたことがない。
- 26 お子さんが人に迷惑をかけるようなことをしたら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア きびしくしかって善悪の区別を教える。
- イ よくわかるように説明してやる。
- ウ 自分からわかるのを待つ。
- エ 考えたことがない。

- 27 お子さんが規則や約束を守らなかったら、どのようにしたいと思われませんか。
- ア きびしくしかって規則や約束のたいせつなことを教える。
- イ よくわかるように説明してやる。
- ウ 自分からわかるのを待つ。
- エ 考えたことがない。
- 28 したいことでも悪いことはしない、また、したくないことでもすべきことはするなど、がまんさせることについて、どのようにお考えですか。
- ア 教育的に必要なことは、強制的にでもがまんさせる。
- イ 必要なことはよく話してやって、自分のがまんさせるようにする。
- ウ 自分でがまんできるようになるのを待つ。
- エ 考えたことがない。
- 29 家の（親の）てつだいをさせることについて、どのようにお考えですか。
- ア 仕事を与えて、てつだいをさせる。
- イ てつだいたいという時にてつだわせる。
- ウ てつだいはさせない。
- エ 考えたことがない。
- 30 地域の身近な社会について知ることを、どのようにお考えですか。
- ア 積極的に教えて身近な社会のことを理解させる。
- イ 身近な社会に関心をもたせるが、ことさらに教えることはしない。
- ウ 自分で関心をもつようになるまで待つ。
- エ 考えたことがない。
- 31 お子さんの友だちをつくる方法は、どのようにしたいと思われませんか。
- ア 子どもの友だちは親が決める。
- イ 友だちの選び方を教えて、自分で決めさせる。
- ウ 自由にまかせる。
- エ 考えたことがない。
- 32 お子さんの遊び友だちと遊びについて、どのようにさせたいと思われませんか。
- ア だれとも仲よく遊ばせる。
- イ なるべく友だちのよりごのみをしないようにさせる。
- ウ 自由にまかせる。
- エ 考えたことがない。
- 33 ピアノ・バレエなどのいわゆる「おけいこごと」をすることについて、どう思われますか。
- ア 何か一つは、ぜひさせる。
- イ 何か一つするようにすすめる。
- ウ 子どもの自由意志にまかせる。
- エ 幼児期はさせるべきではない。
- オ 考えたことがない。
- 34 「おけいこごと」をするとすれば、どのような目的でされますか。
- ア 技術を身につけさせる。
- イ 注意を集中したり、根気強くしたり、がまんしたりする態度を育てる。
- ウ 豊かな心（情操）を育てる。
- エ 親しい友だちを作る。
- オ 考えたことがない。

- 35 幼児の教育にとってテレビはよいと思われ
ますか。悪いと思われませんか。
ア よい。
イ どちらかといえばよい。
ウ どちらともいえない。
エ どちらかといえば悪い。
オ 悪い。
- 36 お子さんが見るテレビ番組を、どのよう
にして決めたらよいと思われませんか。
ア 親が決める。(他の番組は見せない)
イ 特定の番組を指定して必ず見させるが、
その他の番組は自由に見させる。
ウ 特定の番組を指定して禁ずるが、その他
の番組は自由に見させる。
エ 親子で話し合って決める。
オ 子どもの自由にまかせる。
- 37 幼児のけんかについて、どのように考えら
れますか。
ア どのような理由があっても、けんかは悪
い。
イ 不当な攻撃をされたときに、けんかにな
るのはしかたがない。
ウ ことばだけのけんかはかまわないが、手
を出してはいけない。
エ 幼児は未熟であるから、けんかがおこる
のは仕方がない。
オ 幼児にとってけんかは必要な経験であり、
危険のないかぎり悪くない。
- 38 お子さんと話し合うことについて、どのよ
うに考えておられますか。
ア 話し合いの機会を多くする。
イ 気の向いたときに話しかける。
ウ 子どもから話しかけてきたら相手になる。
エ 子どもとはあまり話し合わない。
オ 考えたことがない。
- 39 家庭における幼児の教育についての方針や
方法は、だれが決めたらよいと思われませんか。
ア 父親が決める。
イ 母親の意見も聞きながら父親が決める。
ウ 父親と母親が相談して決める。
エ 父親の意見も聞きながら母親が決める。
オ 母親が決める。
- 40 今日の幼児の家庭教育で、いちばん欠けて
いるもの(十分にできていないもの)は何だ
と思われませんか。
ア からだづくり(十分な運動をしていない)
イ 知的教育(幼児に必要な知識や考え方を
十分に教えていない)
ウ 情操教育(豊かな心を育てていない)
エ 道徳教育(よいこと・悪いことについて
十分に教えていない)
オ 社会性(友だちとじょうずに遊ぶことが
十分にできていない)
- 以上で質問は全部終わりました。
ご協力 ありがとうございます。

表 1. 各質問に対する父親・母親・学級担任の回答 (全体)

問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40			
父	7	15.5	22.3	4.9	9.1	17.1	61.0	5.0	28.7	13.3	9.9	4.3	24.3	6.5	10.9	7.6	1.3	20.5	35.8	23.5	25.3	21.3	35.3	24.3	9.1	12.1	52.9	47.1	18.8	57.4	12.6	0.9	38.8	8.6	5.8	8.2	5.9	3.5	56.7	4.6	30.0	7	
イ	71.3	71.4	47.9	25.8	24.1	26.2	39.6	18.3	66.1	69.1	74.1	57.9	69.5	80.6	79.8	67.6	70.0	59.4	57.8	65.4	69.4	52.4	63.2	75.8	36.0	45.3	48.6	73.8	38.3	52.9	18.9	20.1	16.1	42.0	15.3	6.3	11.0	19.8	14.1	7.4	1		
ウ	11.1	5.7	45.8	61.9	56.8	5.8	50.8	48.7	19.5	19.6	19.9	16.4	21.9	6.6	10.1	27.4	5.9	0.9	11.6	3.3	6.8	9.5	9.8	8.9	50.7	1.4	3.7	6.1	0.6	28.3	78.6	40.1	62.8	38.4	56.0	18.9	13.5	19.8	56.8	23.9	ウ		
エ	2.2	0.7	1.4	3.3	2.1	7.1	4.6	4.4	1.2	1.4	1.8	1.5	2.1	1.9	2.6	3.7	3.6	3.9	7.1	6.1	2.5	2.9	2.7	6.3	1.2	0.5	0.6	1.4	3.8	6.5	1.5	1.1	7.1	5.4	18.0	35.8	23.3	1.2	20.3	26.2	エ		
オ																																										オ	
母	7	6.6	25.9	2.6	7.0	19.3	59.9	2.9	24.9	15.6	10.6	2.1	17.0	4.1	11.9	10.1	0.9	12.7	27.5	28.4	24.4	15.7	22.2	8.1	3.4	6.3	51.4	42.8	15.3	57.4	7.8	0.4	49.6	8.7	5.3	3.8	4.8	1.9	69.1	2.1	30.1	7	
イ	85.6	72.6	49.5	24.6	24.0	26.7	55.1	23.1	62.3	64.8	69.7	66.4	71.6	83.8	79.7	72.5	81.9	68.7	52.0	69.3	76.5	61.6	80.7	87.3	22.0	48.1	54.9	80.4	41.8	55.6	9.7	17.6	17.3	47.3	10.8	4.4	3.9	6.8	8.5	6.6	1		
ウ	6.8	1.1	46.4	63.4	55.4	6.1	40.1	48.4	21.9	24.4	25.1	16.1	22.8	3.9	7.7	23.2	2.3	0.6	10.8	2.1	5.4	11.8	9.5	4.9	71.8	0.4	2.0	3.7	0.3	31.1	89.2	32.6	65.0	38.1	65.8	14.1	12.6	22.5	9.4	24.7	ウ		
エ	1.0	0.3	1.5	4.9	1.3	7.3	1.9	3.5	0.3	0.2	3.1	0.6	1.6	0.4	2.5	3.4	3.2	3.2	8.8	4.5	2.4	4.4	1.7	4.4	0	0.1	0.3	0.6	0.6	5.6	0.7	0.3	4.9	3.1	17.9	51.1	15.1	0.3	71.9	27.2	エ		
オ																																										オ	
担任	7	0	27.9	11.5	14.8	4.9	98.4	3.3	29.5	0	1.6	0	6.6	0	1.6	0	11.5	32.8	57.4	45.9	11.5	24.6	1.6	0	3.3	24.6	24.6	24.6	26.2	52.5	14.8	1.6	75.4	6.6	6.6	3.3	8.2	0	98.4	0	21.3	7	
イ	90.2	72.1	75.4	70.5	45.9	0	85.2	37.7	98.4	85.2	86.9	49.2	96.7	93.4	96.7	85.2	86.9	67.2	26.2	54.1	88.5	54.1	95.1	93.4	16.4	75.4	75.4	73.8	47.5	78.7	11.5	11.5	9.8	16.4	14.8	3.3	4.9	0	1.6	1.6	1.6	1	
ウ	9.8	0	13.1	14.8	49.2	1.6	11.5	31.1	1.6	13.1	11.5	31.1	3.3	4.9	3.3	13.1	1.6	0	14.8	0	0	19.7	3.3	6.6	80.3	0	0	0	0	0	6.6	86.9	13.1	77.0	65.6	60.7	6.6	6.6	1.6	96.7	41.0	ウ	
エ	0	0	0	0	0	0	0	1.6	0	0	1.6	13.1	0	0	0	1.6	0	0	1.6	0	0	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.6	1.6	18.0	78.7	3.3	0	1.6	31.1	エ		
オ																																											オ

表中の数字は%

表2. 各質問に対する父親・母親の回答（幼児の性別によって分けたもの）

対象	質問	回答																																											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40				
父	7	17.0	21.5	5.9	10.9	17.9	62.9	6.3	27.9	14.3	10.8	4.8	26.3	7.3	10.5	8.3	1.3	19.6	34.8	25.0	26.9	22.8	36.1	26.6	10.6	13.0	55.0	47.9	19.3	57.0	14.3	1.5	37.0	7.6	5.4	7.6	6.4	3.6	64.3	5.5	29.8				
	イ	69.8	71.8	48.0	24.6	21.6	24.5	37.8	17.8	63.1	67.0	73.1	54.3	69.8	79.9	80.0	68.0	69.8	61.1	58.5	64.4	67.5	51.6	61.3	74.8	32.5	43.5	47.6	74.0	37.5	51.5	21.9	20.6	14.4	45.1	15.9	5.3	12.5	12.8	15.3	8.0	1			
母	7	11.4	6.3	44.6	61.8	58.9	5.4	51.4	50.1	21.5	20.8	20.5	17.9	21.4	7.6	9.9	26.8	7.3	0.6	10.8	2.3	6.5	9.3	9.4	8.9	53.0	1.1	4.3	5.5	0.5	27.6	75.0	41.3	62.5	34.3	56.4	19.1	11.1	18.1	54.4	25.1	ウ			
	エ	1.9	0.5	1.5	2.8	1.6	7.3	4.6	4.3	1.1	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6	2.0	1.9	4.0	3.4	2.3	5.8	6.5	3.3	3.0	2.8	5.8	1.5	0.4	0.3	1.3	5.0	6.6	1.6	1.1	8.5	6.5	17.3	37.0	17.6	1.8	20.5	24.6	エ		
才																																													オ

対象	質問	回答																																												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40					
父	7	14.0	23.0	3.9	7.3	16.3	59.1	3.8	29.5	12.3	9.0	3.8	22.3	5.8	11.4	7.0	1.3	20.8	35.6	22.0	23.6	19.9	34.4	22.0	7.5	11.3	50.8	46.4	18.3	57.8	10.4	0.4	40.6	9.5	6.3	8.8	5.5	3.4	49.1	3.6	30.3					
	イ	72.8	71.0	47.9	26.9	26.5	27.9	41.4	18.8	69.0	71.3	75.0	61.5	69.3	81.3	79.5	67.3	69.5	57.6	57.1	66.4	71.4	53.1	65.1	76.9	39.5	47.0	49.6	73.6	39.1	54.3	16.0	19.5	17.8	38.9	14.6	7.4	9.5	26.9	12.9	6.8	1	女			
母	7	10.8	5.1	47.0	62.0	54.8	6.1	50.3	47.3	17.5	18.4	19.4	14.9	22.5	5.6	10.3	28.1	4.1	1.3	12.5	4.4	7.0	9.8	10.3	8.9	48.4	1.6	3.1	6.6	0.6	29.0	82.3	38.9	63.0	42.6	55.6	18.8	15.9	21.4	59.3	22.6	ウ				
	エ	2.5	0.9	1.3	3.9	2.5	6.9	4.6	4.5	1.3	1.4	1.9	1.4	2.5	1.8	3.3	3.4	5.6	5.5	8.4	5.6	1.8	2.8	2.6	6.8	0.9	0.6	0.9	1.5	2.5	6.4	1.4	1.0	5.8	4.4	18.8	34.6	28.9	0.6	20.1	27.8	エ				
才																																														オ

対象	質問	回答																																												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40					
母	7	6.8	24.1	2.9	6.9	19.1	61.3	2.8	25.9	16.8	10.4	3.0	16.9	4.6	12.5	10.3	0.9	12.6	27.5	29.1	25.5	14.8	24.5	9.5	3.3	5.5	52.0	42.6	15.3	55.9	8.4	0.4	48.8	5.0	4.8	3.1	4.1	2.3	70.5	2.4	30.4					
	イ	85.8	74.3	47.8	24.5	24.9	24.8	55.0	22.3	61.3	66.9	71.0	65.9	70.9	83.3	78.9	73.1	84.5	70.1	51.8	68.8	78.1	61.1	78.8	86.9	22.0	47.8	55.5	80.4	43.0	55.3	10.0	15.9	14.3	52.4	9.4	4.3	3.8	6.9	8.8	6.9	1	男			
父	7	6.5	1.3	47.6	62.9	54.6	6.6	40.5	48.8	21.6	22.6	22.5	16.8	23.0	4.1	8.3	23.3	1.3	0.8	10.0	1.8	5.0	10.9	9.6	4.8	72.5	0.3	1.4	4.0	0.3	30.8	89.1	35.0	69.0	33.3	67.4	12.6	10.3	20.8	72.3	27.0	ウ				
	エ	1.0	0.4	1.8	5.8	1.4	7.4	1.8	3.1	0.4	0.1	3.5	0.5	1.5	0.1	2.8	2.8	1.6	1.6	9.1	4.0	2.1	3.5	2.1	5.1	0	0	0.5	0.4	0.9	5.6	0.5	0.4	6.1	1.9	18.5	53.4	14.3	0.1	15.5	26.5	エ				
才																																														オ

対象	質問	回答																																												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40					
母	7	6.5	27.8	2.4	7.1	19.5	58.5	3.0	24.0	14.5	10.9	1.3	17.1	3.6	11.4	10.0	1.0	12.8	27.5	27.8	23.4	16.6	19.9	6.8	3.6	7.0	50.8	43.0	15.4	59.0	7.1	0.4	50.4	12.4	5.9	4.5	5.5	1.6	68.7	1.8	29.9					
	イ	85.4	71.0	51.0	24.8	23.1	28.6	55.1	24.0	63.3	62.8	68.4	66.9	72.3	84.4	80.5	71.9	79.3	67.3	52.3	69.9	74.9	62.1	82.6	87.6	22.0	48.5	54.4	80.4	40.5	55.9	9.4	19.3	20.4	42.1	12.3	4.6	4.1	6.6	8.3	6.3	1	女			
父	7	7.1	1.0	45.1	64.0	56.1	5.6	39.6	48.1	22.1	26.1	27.8	15.4	22.5	3.6	7.1	23.1	3.3	0.5	11.6	2.5	5.8	12.8	9.4	5.0	71.0	0.5	2.6	3.4	0.3	31.5	89.4	30.3	61.0	42.9	64.1	15.5	14.9	24.3	71.6	22.4	ウ				
	エ	1.0	0.3	1.3	4.1	1.3	7.3	2.1	3.9	0.1	0.3	2.6	0.6	1.6	0.6	2.4	4.0	4.8	4.8	8.4	4.3	2.8	5.3	1.3	3.8	0	0.3	0	0.9	0.3	5.5	0.9	0.1	3.8	4.4	17.3	48.8	16.0	0.4	16.5	27.9	エ				
才																																														オ

表中の数字は%

表3. χ^2 検定 (項目1~32 $df=3$ 項目33~40 $df=4$)

比較条件	問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
全体	父:母	*** 101.108	*** 55.828	*** 11.343	*	<i>ns</i> 5.189	*** 111.772	*** 87.154	** 14.952	*** 16.902	*** 26.479	*** 28.746	*** 36.558	*	*** 29.251	*	*	*** 70.608	*** 30.368	*** 26.688	<i>ns</i> 3.902		
	父:教	*** 14.357	<i>ns</i> 5.285	*** 29.549	*** 69.273	*** 18.916	*** 35.772	*** 51.893	*** 17.098	*** 28.435	*	9.060	+	*** 57.857	*** 21.591	*	9.162	9.365	<i>ns</i> 4.257	*** 41.173	*** 17.070		
	母:教	<i>ns</i> 6.138	<i>ns</i> 1.529	*** 39.298	*** 78.004	*** 19.620	*** 37.490	*** 23.610	*	10.601	*** 33.688	** 12.140	*	*** 105.570	<i>ns</i> 19.276	+	** 11.907	<i>ns</i> 5.593	<i>ns</i> 2.856	<i>ns</i> 3.503	*** 29.224	*** 186.696	
	男児	*** 61.327	*** 28.360	*	** 15.766	<i>ns</i> 3.595	<i>ns</i> 1.231	*** 57.225	*** 34.796	<i>ns</i> 6.171	<i>ns</i> 4.842	*	9.644	*** 30.361	<i>ns</i> 5.230	** 11.802	<i>ns</i> 3.283	<i>ns</i> 5.830	*** 60.898	** 14.937	** 12.164	+	6.701
	女児	*** 41.039	*** 28.559	<i>ns</i> 5.975	<i>ns</i> 1.025	+	<i>ns</i> 0.356	*** 34.796	*** 6.428	*	** 15.196	*** 22.757	*** 25.356	*	<i>ns</i> 5.847	*	9.871	5.778	*** 21.817	*** 17.312	+	6.352	
	父親	<i>ns</i> 3.683	<i>ns</i> 2.114	<i>ns</i> 3.958	*	+	<i>ns</i> 3.132	<i>ns</i> 6.428	+	<i>ns</i> 1.324	+	<i>ns</i> 3.483	<i>ns</i> 1.528	*	<i>ns</i> 3.115	<i>ns</i> 2.922	<i>ns</i> 3.839	<i>ns</i> 0.733	*** 26.102	** 13.411	+	7.876	
母親	<i>ns</i> 0.274	<i>ns</i> 3.030	<i>ns</i> 4.442	<i>ns</i> 2.265	<i>ns</i> 3.721	3.417	1.455	1.769	1.769	2.599	3.488	11.548	0.657	1.159	3.409	4.035	2.007	20.718	13.136	1.519	1.932		
全体	父:母	*** 21.658	*** 68.520	*** 167.046	*** 76.872	*** 161.096	** 14.505	*** 19.399	*** 23.776	*** 41.981	*** 34.604	*** 67.271	*** 43.804	*** 11.202	*	*** 19.997	*** 76.934	*** 126.256	*** 140.828	*** 94.703	<i>ns</i> 2.123		
	父:教	** 11.974	*	*** 26.978	** 12.654	*** 21.560	*** 22.308	*** 18.101	+	6.830	<i>ns</i> 4.739	*** 13.5056	<i>ns</i> 4.042	*** 33.927	+	*** 22.741	<i>ns</i> 2.686	80.236	*** 32.889	*** 42.566	*** 39.105	** 15.122	
	母:教	+	<i>ns</i> 5.289	*	<i>ns</i> 5.964	<i>ns</i> 2.858	*** 18.141	*** 10.990	*	7.973	<i>ns</i> 1.785	*** 24.864	<i>ns</i> 3.443	*** 16.755	<i>ns</i> 5.539	*** 25.856	<i>ns</i> 2.436	24.950	** 12.316	*** 22.744	*** 18.878	** 13.067	
	男児	*** 23.304	*** 25.594	*** 83.112	*** 48.915	*** 76.747	*	*** 19.670	*** 11.480	** 11.480	*** 26.933	** 15.250	*** 55.282	*** 24.924	*	*** 25.658	*** 39.406	48.365	*** 56.677	*** 32.176	*** 65.110	<i>ns</i> 5.707	
	女児	<i>ns</i> 5.743	*** 46.077	*** 85.510	*** 31.933	*** 89.060	<i>ns</i> 6.239	*** 64.451	*** 14.099	** 14.099	*** 16.310	+	*** 17.093	*** 22.424	*	+	*** 18.184	35.547	*** 85.037	*** 126.286	*** 32.314	<i>ns</i> 0.491	
	父親	<i>ns</i> 6.164	<i>ns</i> 0.712	<i>ns</i> 4.805	<i>ns</i> 5.189	*	<i>ns</i> 3.677	<i>ns</i> 4.671	<i>ns</i> 1.238	<i>ns</i> 1.238	+	<i>ns</i> 5.756	** 15.531	<i>ns</i> 2.229	*** 15.286	** 15.237	<i>ns</i> 2.178	7.266	*** 45.142	*** 64.801	+	<i>ns</i> 3.425	
母親	<i>ns</i> 2.508	*	+	<i>ns</i> 1.945	<i>ns</i> 1.565	2.835	7.230	2.028	2.028	<i>ns</i> 4.057	<i>ns</i> 0.918	<i>ns</i> 0.982	+	*** 51.835	*** 33.343	<i>ns</i> 6.177	5.725	+	<i>ns</i> 5.289	<i>ns</i> 2.647	* 10.709		

表中の数値は χ^2 値
有意水準 *** $p < 0.001$ ** $p < 0.01$ * $p < 0.05$ + $p < 0.10$

質問紙の内容は次のように構成されている。
幼児の発達と教育の内容に関するもの
質問番号 1～8 身体的内容
質問番号 9～16 知的内容
質問番号 17～24 情緒的および性格的内容
質問番号 25～32 社会的内容
今日の家庭教育で問題になりそうな事項に関するもの
質問番号 33～40

2. 調査対象と調査方法

調査対象は、松江市公立幼稚園22園の全幼児3,003人の両親(両親のうちいずれか一方または両方がいない場合は、それぞれに代わるおとな)6,006人および松江市公立幼稚園22園の全教諭のうち学級担任85人である。

父母(またはそれに代わるおとな)は、それぞれ相談しないで別々に答えてもらった。また、学級担任も、園内で相談しないで別々に答えてもらった。

父母(またはそれに代わるおとな)の回答は、2通をいっしょに組にして指定の封筒に入れて学級担任へ提出してもらい、各学級担任の回答は各幼稚園ごとに一括して封筒に入れてもらった。

なお、松江市公立幼稚園はすべて二年保育であり、昭和55年4月1日現在における幼児の年齢は4歳(年少組)および5歳(年長組)である。また松江市では、入園を希望するすべての4歳児および5歳児は全員幼稚園に入園することができ、各公立小学校の校区ごとに公立幼稚園があって、就園率はきわめて高い。したがって、この調査の対象となった者は、一部の特定の階層ではない。

調査の時期と方法は次のとおりである。

(1) 調査への協力依頼と質問紙等の配布

昭和56年1月29日・30日の2日間に松江市公立幼稚園を巡回し、各幼稚園長に対して調査についての協力を依頼して、質問紙と依頼状と提出用封筒(いずれも必要数)を手渡した。

これにもとづいて各幼稚園では、その翌日に対象者に対して次のとおり配布された。

各学級担任へ 依頼状1枚と質問紙1部
各幼児へ 依頼状1枚と質問紙2部

これは提出用の封筒に入れてある。

幼児に手渡されたものは、帰宅後保護者の手に

渡る。

(2) 質問紙(回答)の回収

各幼稚園ごとに、両親またはそれに代わるおとなの回答は、父母別に書いて一つの封筒に入れたものを幼児が学級担任へ提出し、各学級担任は、それに自己の回答を添えて、昭和56年2月4日までに園長に提出した。

このようにしてとりまとめられたものを、昭和56年2月6日に巡回し、回収した。

3. 結果の整理

以上の方法によって回収した回答の数は、両親またはそれに代わる者が2,712組(回収率90.3%)学級担任が79人(回収率92.9%)であった。

このうちから次にあげるものを除外した。

- ・無答の項目のあった者
- ・保護者のうち父親および母親でない者

この結果、残った回答の数は次のようになった。

両親	1,842組
内訳	4歳男児の両親 461組
	4歳女児の両親 421組
	5歳男児の両親 460組
	5歳女児の両親 500組

学級担任 61人

さらに、条件を整えるために、両親の回答については、無作為に、4歳男児の両親、4歳女児の両親、5歳男児の両親、5歳女児の両親をそれぞれ400組、計1,600組に減じた(この数は、最初に配布した対象保護者数の約53.3%に相当する)。

このようにして残った回答について行なった処理は次のとおりである。

(1) 集計

男児の父親、女児の父親、男児の母親、女児の母親、学級担任の5区分により、各質問に対する回答(ア～エまたはア～オ)の数を集計する。さらに、男児の父親の回答と女児の父親の回答、男児の母親の回答と女児の母親の回答をそれぞれ合計する(結果は%で示す)。

(2) ずれの検討

まず、男児の保護者と女児の保護者を合わせた(ただし父母別の)回答と学級担任の回答から、父親と母親、父親と学級担任、母親と学級担任の間のそれぞれの回答にみられるずれを検討する。次に、男児と女児のそれぞれについて、父親の回

答と母親の回答の間にみられるずれを、また、父親の回答と母親の回答について、男児についての回答と女児についての回答にみられるずれを検討する。

結 果

各質問に対する（幼児の性別を問わず合わせた）父親、母親および学級担任の回答を集計し、%で示したものが表1である。また、両親の回答についてさらに、男児の父親、女児の父親、男児の母親、女児の母親の4区分で回答を集計し、%で示したものが表2である。さらに、表1および表2にあらわれたずれについて χ^2 検定を行なった結果が表3である。

これらの表から、この調査の結果を次のようにまとめることができる。

1. ずれの全体的な状況（概観）

表3でわかるように、全体（幼児の男女を合わせたもの）についてみると、父親、母親、学級担任の三者間において、大部分の質問項目について回答にずれがあり、有意差が認められた。また、対象の幼児が男児である場合も女児である場合も、父親と母親との間に、多くの質問項目について回答にずれがあり、有意差が認められた。しかし、父親においても母親においても、対象の幼児が男児であるか女児であるかによる回答のずれは少なかった。つまり、父親と母親と幼稚園教諭の三者間に教育意識の差が認められたが、父親も母親も男児に対する教育と女児に対する教育とに差異を認めることは少なかった。

次に、表1から、学級担任の回答は、多くの質問項目においてア～オのうちのいずれかに集中する傾向が強いのにに対して、父親の回答は分散する傾向をみせ、母親の回答はその中間にある。つまり、教育についての共通理解の度合いは、幼稚園教諭、母親、父親の順に低くなっている。ただしこれは、価値判断の是非とは別問題である。

2. 質問項目ごとにみられた回答の傾向

(1) 身体的内容に関するもの

偏食（質問番号1）については、父親、母親、学級担任ともに、説得によって改めさせようとする者が多数を占めたが、父親の場合は、強制的に改めさせようとする者と、すきなようにさせると

する者とが、ともに10%を越え、母親および学級担任とは、やや異なる状況をみせた。

安全（質問番号2）については、三者ともに指導の必要性を認める者が最も多く、次いで保護の必要性を認める者が多いが、この項目でも、父親の回答には、わずかながらばつきがみられる。

運動（質問番号3～6）については、学級担任には、強制にならない範囲で積極的であろうとする回答が多数を占める傾向があり、その積極性において父親および母親の回答を大きく上回っている。また、わずかではあるが、父親よりも母親に消極的な回答が多い。さらに、父親の回答のうち、運動の種類に関するもの（質問番号4）においては、わずかではあるが、女児よりも男児に対して消極的な回答が多くなっている。

手先の器用さ（質問番号7）については、学級担任の多数が積極的な回答をしているが、父親においては積極的な回答が消極的な回答より少なく、母親においては積極的な回答が多いものの、その数は60%に達していない。したがってこの項目についての回答は、三者の間に、かなり差異がみられる。

刃物の使用（質問番号8）については、父親と母親のそれぞれ半数近くが自由に任せると答えているのに対して、学級担任で自由に任せると答えた者は $\frac{1}{3}$ に達していない。また、ナイフの使用を禁ずると答えた者が、父親で18.3%であるのに対して、学級担任では37.7%に達した。この項目についての回答も、三者の間に、かなりの差異がみられる。

以上、質問項目の1～8を通して、父親および母親においては、どの項目に対しても「考えたことがない」という回答が、わずかながらみられたが、学級担任においては「考えたことがない」という回答は、刃物の使用（質問番号8）のみである。また、父親および母親に比べて学級担任の回答は、運動の種類（質問番号5）と刃物の使用（質問番号8）についての質問を除けば、一つの回答に多数が集中している。

(2) 知的内容に関するもの

ひらがなの読み書き（質問番号9および10）については、父親、母親、学級担任ともに、興味をもたせるとする回答が多数を占めたが、学級担

任にこの回答が集中的に多いのに対して、父親、母親の順にその数値が低くなっていて、三者の間に差異がみられる。

簡単な算数（質問番号11）については、父親、母親、学級担任ともに、興味をもたせるとする回答が多数を占めたが、学級担任にこの回答が集中的に多いのに対して、父親、母親の順にその数値が低くなっていて、三者の間に差異がみられる。また母親の場合は、男児に対してよりも女児に対して要求の度が低くなっている。

ことばづかい（質問番号12）については、父親、母親、学級担任ともに関心をもたせるとする回答が多数を占めたが、きびしくしつげると答えた者が父親では $\frac{1}{4}$ に近かったのに対して、母親、学級担任の順に少なくなり、また、学級担任においては、しぜんに身につくのを待つと答えた者が30%を越えるなど、三者の間に差異がみられる。

生活に必要な知識（質問番号13）については、父親、母親、学級担任ともに、自分で考えさせたり実際に経験させたりするとする回答が多数を占めたが、その数値は、学級担任、母親、父親の順に少なくなっており、三者の間に差異が認められる。また、父親と母親では、しぜんに身につくのを待つとする回答がそれぞれ20%を越えた。

製作活動におけるゆきづまり（質問番号14）については、父親、母親、学級担任ともに自分でくふうさせるとする回答が多数を占めたが、父親では、指導や助言をしないと回答と、考えたことがないとする回答が、母親や学級担任の場合よりやや多く、差異が認められた。

知的な教育の内容や程度（質問番号15）については、父親、母親、学級担任ともに、小学校を意識する必要がないと答えた者が多数を占めたが、小学校を意識する回答が、学級担任で0であったのに対して、父親で7.6%、母親で10.1%みられた。また、知的な教育を考える必要はないと答えた者は、学級担任よりも母親に多く、母親よりも父親に多かった。このように、三者の間に差異が認められた。

おとなと幼児との考え方の違い（質問番号16）については、父親、母親、学級担任ともに、豊かな経験を与えてほしいにわからせるとする回答が多数を占めたが、その数値は、学級担任、母親、

父親の順に少なくなっており、また、そのままよいとする回答は、逆に、学級担任、母親、父親の順に多くなっている。

以上、質問項目9～16を通して、父親および母親においては、いずれの質問についてもすべての選択肢にわたって回答が分散したが、学級担任においては、読むこと（質問番号9）、算数（質問番号11）、生活に必要な知識（質問番号13）、知的な教育の内容や程度（質問番号15）、ものの考え方（質問番号16）の5項目で、強く教えるとする回答が0であった。また、「考えたことがない」という回答は、算数（質問番号11）、ことばづかい（質問番号12）、ものの考え方（質問番号13）の3項目のみにみられた。また、父親および母親の回答に比べて学級担任の回答は、ことばづかい（質問番号12）についての質問を除けば、一つの回答に多数が集中している。

(3) 情緒のおよび性格的内容に関するもの

乱暴（質問番号17）については、父親、母親、学級担任ともに、乱暴しないように話してやるとする回答が多数を占めたが、その数値は、学級担任、母親、父親の順に低くなっている。また逆に、乱暴を禁止するとする回答は、学級担任、母親、父親の順に高くなっている。そして、父親と母親および父親と学級担任との間に有意差がみられる。なお、この項目については、父親は女児よりも男児に対して、母親は男児よりも女児に対して容寛な傾向がみられる。

残忍な行為（質問番号18）については、父親、母親、学級担任ともに、残忍な行為をしないように話してやるとする回答が多数を占めているが、母親、学級担任、父親の順に数値が低くなっており、逆に、禁止するという強い回答の数値は、母親、学級担任、父親の順に高くなっている。そして、父母の間に有意差がみられる。また、父母ともに、男児に対してよりも女児に対して、考えたことがないという回答を多く出している。

おとなし過ぎること（質問番号19）については、学級担任の半数以上が積極的な指導によって活動させると答えているのに対して、父母それぞれの半数以上は、ことばで指導すると回答している。ただし、積極的な指導によって活動させようとする態度が父親よりも母親に強い。また、男児に対

しては、母親よりも父親にわずかながら積極性がみえる。

劣等感(質問番号20)については、父親と母親の $\frac{2}{3}$ に近い者が明るいふんい気のなかで育てると答えたのに対して、学級担任は、そのことと積極的な指導によって子どもの長所を伸ばすという答えとにほぼ二分され、大きい違いをみせた。また父親は、わずかながら女兒に対してよりも男児に対してやや積極的な答えをみせた。

根気(質問番号21)については、父親、母親、学級担任ともに、好きなことや得意なことに熱中させると答えた者が多数を占めたが、その数値は学級担任、母親、父親の順に低くなっており、逆に、積極的な指導によって物事を最後までさせると答えた者が、学級担任、母親、父親の順に多くなっている。この項目では、父親と母親および父親と学級担任との間に、それぞれ有意差がみられた。

あまえ(質問番号22)については、父親、母親、学級担任ともに、あまえ過ぎないように話してやると答えた者が半数を上回ったが、その数値は、母親、学級担任、父親の順に低くなっており、逆に、強い態度をとると答えた者が、母親、学級担任、父親の順に高くなっている。この項目では、父親と母親および父親と学級担任との間に、それぞれ有意差がみられた。

すねること(質問番号23)については、父親、母親、学級担任ともに、原因を聞いたうえでねることはよくないことを話してやると答えた者が多数を占めたが、その数値は、学級担任、母親、父親の順に、かなり大きい差をもって低くなっており、三者の間に差異が出ている。さらに、父親の $\frac{1}{4}$ に近い者が、強い態度をとると答えていて、他の二者との間に大きい違いをみせている。

おどおどする傾向(質問番号24)については、父親、母親、学級担任ともに、よく話し合い安心するように話してやると答えた者が多数を占めたが、その数値は、学級担任、母親、父親の順に低くなっており、父親と母親および父親と学級担任の間にそれぞれ有意差がみられた。

以上、質問項目の17~24を通して、父親および母親においては、いずれの質問についてもすべての選択肢にわたって回答が分散したが、学級担任においては、「考えたことがない」という回答

は、おとなし過ぎること(質問番号19)と、あまえ(質問番号22)の2項目のみにみられた。また、18のウ(幼児の残忍な行為は気にしない)、20のウ(劣等感がなくなるのを待つ)、21のウ(幼児期に根気がないのは気にしない)の三つの回答は0であった。

なお、父親と母親との差異や父親と学級担任との差異に比べれば、母親と学級担任との差異は少ない。

(4) 社会的内容に関するもの

自立の習慣(質問番号25)については、父親、母親、学級担任ともに、手をかしながら指導すると答えた者が多数を占めたが、その数値は、学級担任、母親、父親の順で低くなっている。また逆に、手をかさなできびしくしつけると答えた者と、よく説明して自分でさせると答えた者とが、ともに、学級担任、母親、父親の順で多くなっている。そして、父親と母親および父親と学級担任との間に、それぞれ有意差がみられる。また、父親には、女兒よりも男児に対してわずかに寛大な態度がみられる。

人に迷惑をかけたときのこと(質問番号26)については、父親はきびしく叱ると答えた者が最も多くて、よくわかるように説明してやると答えた者がそれに次いでいる。母親の場合もそれに似ているが、二つの答えの間の数値の差が少なくなっている。そして学級担任の場合はその関係が極端に逆転して、約 $\frac{3}{4}$ の者がよくわかるように説明してやると答え、約 $\frac{1}{4}$ の者がきびしく叱ると答えている。このように三者の間に差異がみられるが、父母の間の差異は男児に対してみられる。

規則や約束(質問番号27)については、父親、母親、学級担任ともに、よくわかるように説明してやると答えた者が多数を占めたが、その数値は、学級担任、母親、父親の順で低くなっている。そして父親の場合は、次の、きびしく叱って教えるると答えた者の数値との差がわずかである。このようにして、三者の間に差異がみられる。

がまんすること(質問番号28)については、必要なことをよく話してやって自分だけがまんさせると答えた者が、父親でも母親でも学級担任でも多数を占めたが、とくに母親においてそれが多かった。また、学級担任では、強制的にでもがまんさ

せると答えた者が $\frac{1}{4}$ を越えた。この項目では、父親と母親および母親と学級担任の間で、それぞれ有意差がみられた。

てつだいをすること(質問番号29)については、父親、母親、学級担任ともに、仕事を与えててつだいをさせると答えた者が半数を越え、それに次いで、てつだいをしたいというときにてつだわせるという回答が多かった。この項目については、父親と母親との間に有意差がみられ、父親においては、考えたことがないという答えがやや多いという違いをみせた。

身近な社会を知ること(質問番号30)については、父親、母親、学級担任ともに、関心をもたせるとする回答が多数を占めたが、その数値は、学級担任、母親、父親の順で低くなっている。また、父親と母親では、自分で関心をもつようになるまで待つと答えた者の数が、それぞれ30%前後であった。さらに、数としては多くないが、積極的に教えるという回答は、多い方から、学級担任、父親、母親の順であった。このように、この項目では三者の間に差異がみられた。

友だちを作る方法(質問番号31)については、父親、母親、学級担任ともに、自由に任せると答えた者が多数を占めたが、その数値は、母親、学級担任、父親の順で低くなっている。逆に、数は少ないが、友だちの選び方を教えて自分で選ばせると答えた者の数は、母親、学級担任、父親の順で多くなっている。この項目は、父親と母親の間に有意差がみられ、また父親の男児についての回答と女兒についての回答との間に有意差がみられた(男児に対して、より積極的な答えがみられた)。

友だちとの遊び(質問番号32)については、父親と母親では、いずれの選択肢においても50%に達する回答はなかった。数値の高かったもの三つを順にあげてみると、父親では、自由に任せる、だれとも仲よく遊ばせる、なるべく友だちのよりごのみをしないようにさせる、という順になり、母親では、だれとも仲よく遊ばせる、自由に任せる、なるべく友だちのよりごのみをしないようにさせる、という順になる。これに対して学級担任では、だれとも仲よく遊ばせると答えた者が75.4%で、残りが、なるべく友だちのよりごのみをしないようにさせる、と、自由に任せる、であった。

この項目については、三者の差異が顕著である。

以上、質問項目の25~32を通して、父親および母親においては、いずれの質問についてもすべての選択肢にわたって回答が分散したが、学級担任においては、すべての質問について「考えたことがない」という回答は0であった。さらに「自分からわかるのを待つ」(質問番号26のウおよび27のウ)「自分でがまんできるようになるのを待つ」(質問番号28のウ)「てつだいはさせない」(質問番号29のウ)の四つについても、回答は0であった。

なお、父親と学級担任との間の差異や母親と学級担任との差異よりも、父親と母親との間の差異の方が多。

(5) 今日家庭教育で問題になりそうな事項に関するもの

おけいごと(質問番号33)については、父親、母親、学級担任ともに、子どもの自由意志に任せると答えた者が多数を占め、その数値は、学級担任、母親、父親の順で低くなっている。また、父母ともに、男児に対してよりも女兒に対してさせようとする者の方が多い。この項目では、父親と母親の間に有意差がみられ、また、父親の場合も母親の場合も、男児に対するものと女兒に対するものとの間に有意差がみられた。

おけいごとの目的(質問番号34)については、父親と母親では、いずれの選択肢においても50%に達する回答はなかった。父母ともに多かった回答は、注意を集中したり根気強くしたりがまんしたりする態度を育てることで、次いで豊かな心(情操)を育てることであった。これに対して学級担任は、豊かな心(情操)を育てることに、多くの回答が集中している。なお、父母については、父親よりも母親に、態度を育てるとする回答が多くみられた。また、父親も母親も、男児に対しては情操よりも態度を目的とする者がわずかに多く、女兒に対しては態度よりも情操を目的とする者がわずかに多かった。全体として、父親と母親と学級担任のそれぞれの回答の間に有意差がみられ、また、父親の場合も母親の場合も、男児に対する回答と女兒に対する回答との間に有意差がみられた。

テレビ(質問番号35)については、教育上よいか悪いかについて、父親、母親、学級担任ともに、

どちらともいえないと答えた者が最も多かった。そしてその数値は、母親に最も多く、次いで学級担任、父親の順であった。また、テレビに対して肯定的な回答をした者は数としては少ないが、そのなかで高いものから低いものへの順は、父親、学級担任、母親の順であった。この項目では、父親の回答と母親の回答との間に有意差がみられた。

見るテレビ番組の決定(質問番号36)については、父親と母親では、回答数が、親子で話し合っ て決める、子どもの自由に任せる、特定の番組を指定して禁ずるがその他の番組は自由に見させる、の順になっているが、父親に比べて母親では、親子で相談して決めると答えた者が少し多かった。これに対して学級担任では、親子で相談して決めると答えた者が多く、他の答えは少なかった。この項目では、父親、母親、学級担任のそれぞれの回答の間に有意差がみられた。

幼児のけんか(質問番号37)については、父親、母親、学級担任ともに、これを幼児にとって必要な経験であると答えた者が最も多く、数値の高いものから順にあげると、学級担任、母親、父親の順になるが、学級担任が82.5%であるのに対して父親は48.8%と、三者間に大きい開きがある。なお、父親においては、男児に対する回答と女児に対する回答とに差異があり、男児に対してよりも女児に対する方が、必要な経験であるとする答えが少ない。

幼児との話し合い(質問番号38)については、学級担任では話し合いの機会を多くすると答えた者がほとんどであった。母親もこの答えが多かったが、子どもが話しかけてきたら相手になると答えた者もかなりあった。また父親では、話し合いの機会を多くすると答えた者が最も多かったが、気の向いたときに話しかけると答えた者や、子どもから話しかけてきたら相手になると答えた者も少なくなかった。このように、三者の間に大きい差異がみられた。なお、父親の場合は、男児に対しては話し合いの機会を多くするという答えが多く、女児に対する場合との間に大きい差異がみられた。

家庭における幼児の教育についての決定(質問番号39)については、父親では、父親と母親とが相談して決めると答えた者が過半数で、続いて、

父親の意見も聞きながら母親が決める、母親の意見も聞きながら父親が決める、という順序であった。また母親では、父親の意見も聞きながら母親が決めると答えた者が70%を越え、母親が決めるという答えがそれに次いだ。なお学級担任では、父親と母親が相談して決めると答えた者がほとんどであった。このように、三者の間には著しい差異がみられた。

今日の家庭教育で欠けているもの(質問番号40)については、10%以上の者が答えたものを高いものから順にあげてみると、父親と母親はほぼ似ていて、からだづくり、道徳教育、情操教育、社会性の四つがあげられた。これに対して学級担任は、情操教育、道徳教育、からだづくりの三つで、父母との間に差異がみられた。

以上の質問項目33~40を通して、父親および母親においては、いずれの質問についてもすべての選択肢にわたって回答が分散したが、学級担任においては、「どのような理由があってもけんかは悪い」(質問番号37のア)、「気の向いたときに話しかける」(質問番号38のイ)「子どもとはあまり話し合わない」(質問番号38のエ)「考えたことがない」(質問番号38のオ)、「父親が決める」(質問番号39のア)「母親が決める」(質問番号39のオ)の六つについて回答が0であった。

なお、父親、母親、学級担任の三者の間に、多くの項目で回答の差異がみられた。

考 察

以上の結果から、父親、母親、学級担任の三者間に、教育意識のずれがあることがわかった。また、何がどのようにずれているかについても、調査の範囲では、いちおうわかった。

これらのことを念頭におきながら、概括的に考察してみることにしよう。

1. 身体的内容について

運動に関するもの、手先の器用さに関するものおよび刃物の使用についてみると、父親と母親との間には、いろいろと差異はあるものの、自由に任せる態度が強い。これに対して学級担任には自由に任せる態度は少なく、意図的な態度が強く出ている。これは、家庭においては運動の機会が少ないということと、幼稚園教諭の場合は職務に対

する意識があるということからくる両者の置かれた立場や条件の違いによるものとも考えられるが、父母の意識に問題はないのかを、さらに検討してみることが必要であろう。自由に任せるということばで表現されるものが、子どもを尊重しているかにみえて、じつは教育的配慮を欠くものであるとすれば問題だからである。

刃物の使用については、幼稚園教諭に最も消極的な態度が強く出ている。これは、とくにナイフを使用するには幼児は未熟で不適当であるという判断なのか、安全についての管理的な立場が強く出たものなのか、そのことはよくわからないが、検討してみることが必要であろう。

2. 知的内容について

知的内容としてとりあげたものは、選択肢のAは、幼児に対する要求度の強いもので、したがって、これを強く出し過ぎると教育上好ましくないものも含まれている。それに対してIは、幼稚園教育のなかで当然行なわれているはずのことである。

父親および母親の回答をみると、両者の間にいろいろと差異はあるが、どの質問項目についても、最も多い回答はIになっている。しかし、父親の回答で、ことばのしつけについてのAが24.3%に達しているし、父親と母親の両方を通じて、ひらかなを読むこと、ひらかなを書くこと、算数、生活に必要な知識、ものの考え方の5項目については、消極的な回答であるウが、20%前後またはそれ以上になっている。これに対して幼稚園教諭の回答では、ことばのしつけに関する回答でウが31.1%に達している（Iが49.2%）ほかは、すべてIの回答が集中的に高くなっている。身体的内容の場合と同様に、知的内容においても、父親と母親よりも幼稚園教諭に意図的な態度が強く出ている。今日の親たちの意識が知的教育にかたより過ぎていられるといわれる多くの批判とは逆の結果が出たことになる。このような結果が出た事情や原因については、さらに検討してみる必要があるが、今まで行なわれてきた多くの批判が誤解されて、すべて知的教育は罪悪であるというように考える親がもしあるのなら、問題だといわなければならない。

なお、ことばのしつけについての回答で父親と幼稚園教諭との間にほぼ反対の傾向がみられたこ

とについては、今日の状況から考えて当然のことであろう。

3. 情緒的および性格的内容について

情緒的および性格的内容については、父親の回答は、すべての質問項目について、話してやるとか条件を作ってやるといったおだやかなものつまりIの回答が一番多かったが、きびしい態度をとるとする回答も少なくなかった。これに対して幼稚園教諭は、きびしい態度をみせたのは、残忍な行為とあまえに対してだけで、逆に、おとなし過ぎる幼児や劣等感をもった幼児に対しては積極的に手をさしのべる態度を示した。そして母親は、一部の質問項目について父親と似た回答もあったが、むしろ全体としては父親とかなり異なっており、幼稚園教諭に近い態度を示す項目が目についた。

このような傾向がみられたのは、母親や幼稚園教諭に比べて父親が幼児に接することが少なくして態度の違いが出てくるのか、あるいは男性と女性との違いからくるものなのか、さらに検討してみる必要がある。

いずれにしても、情緒的および性格的内容に関するものは幼児期においては重要な意味をもつものと考えられるし、またこれは、家庭において重要なものであるから、父親と母親との態度の違いを克服する方途を考える必要がある。

4. 社会的内容について

社会的内容については、父親、母親、幼稚園教諭の三者の間にそれぞれ違いがみられたが、しつけ的な面については幼稚園教諭よりも父親と母親に強い態度が多かった。それに対して、身近な社会について知ることについては、父親および母親よりも幼稚園教諭に意図的な態度がみられた。これは、知的内容の場合と同じ傾向である。

友だちとの遊びについて、幼稚園教諭は、だれとも仲よく遊べるという答えがとくに多かったが、母親では、それに次いで自由に任せるという答えがかなりあり、父親では、自由に任せるという答えが、だれとも仲よく遊べるという答えを上回った。この項目についても、父親および母親に比べて幼稚園教諭の方が意図的であるといえる。

以上のことを考慮するなら、社会的内容についても、三者の違いを克服する方途が必要になるであろう。

5. 今日の家庭教育で問題になりそうな事項の内容に関するもの

これに該当するものの中にも、いろいろと意識の差のみられるものがある。そして、違ってもさしつかえないものもある。たとえば、おけいごとについて、ある者は注意の集中という目的をもってさしつかえないし、ある者は情操教育という目的をもってよいであろう。また、違うのが当然なものもある。たとえば、今日の家庭教育で欠けているものという場合には、地域や各家庭によって状況が違うということもあり得る。さらに、個人の見解の相違ということも否定できない。たとえば、幼児の教育にとってテレビをよいと考えるか悪いと考えるかは、見解はいろいろであろう。

しかし、少なくとも父母（つまり夫婦）できれば家族全員の意志統一を必要とするものがある。たとえば、おけいごとをさせるべきかささせるべきでないか、テレビのどの番組を見させるのかどの番組を見させないのか、幼児のけんかをどのように解釈するのか、といったことである。

なお、質問番号39の「家庭における幼児の教育についての方針や方法は、だれが決めたらよいと思われますか」という質問に対して、父親、母親、学級担任の三者の回答に極端な違いが出ている。学級担任の答えで「父親と母親が相談して決める」とする者が96.7%に達しているのは公平な態度であろう。これに対して母親の答えでは「父親の意見も聞きながら母親が決める」とする者が71.9%であり、父親の答えでは「父親と母親が相談して決める」とする者が56.8%で、「父親の意見も聞きながら母親が決める」とする者が20.3%である。母親の態度は、育児を自分の責任と考えて夫に負担をかけまいとする責任感や思いやりから出たものなのか、あるいは、夫を無視した自己中心的なものなのか、検討の必要があろう。また、父親の態度は、妻を信頼して任せるとしたことなのか、妻の強さに負けて妥協したのか、育児をわずらわしいこととして敬遠しているのか、これも検討の必要があろう。いずれにしても、父親の回答には、自分が決めるというものは少ない。

ところで、家庭における幼児の教育についての方針や方法をだれが決めるのがよいのか、また、

夫婦で相談するのがよいのか、しないのがよいのかということについては、ここでは結論は下さないことにする。しかし、少なくともこの結果から言えることは、父親と母親との間で、現に意見が大きく違っているということであり、そのような違いのあるなかで、実際にはどのようにして方針や方法を決めているのかという疑問が出てくる。あるいは、はっきりした方針もなく、一貫した方法もなく、不安定な状態で育児を続けているのであろうか。もしそうだとするならば、由々しい問題といわなければならない。このことについては、次の機会に究明の努力をしたい。

6. 男児に対する意識と女児に対する意識の違いについて

調査の内容にもよるかもしれないが、今回の調査では、父親も母親も、子どもが男児であるか女児であるかによる意識の違いを、大きくはみせなかった。多くの質問項目で、回答のうえでの差がなかった。しかし、ごく少数の質問項目について、わずかながら差の出たものもある。

このことについては、今回の結果だけでは何も言えないので、次の機会に検討したい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



問題

教育界で近年問題にされていることのなかに、心身の発達のひずみと、非行と、学力の三つがある。これらのものは全く無関係とは考えられないが、非行や学力の問題が中学生を中心に発生しているのに対して、発達のひずみの問題は早くから発生しており、幼児期にすでにその兆候がみられる。

これらの原因については、今日必ずしも明らかになっているわけではなく、おそらく多くの要因の複雑な組み合わせによるものと考えられるが、そのなかでも、家庭における親子関係と夫婦の関係、それと、保育所や学校(幼稚園を含む)における教育との間の矛盾などを無視することはできないであろう。そしてまた、これらのことに問題があるとするなら、その問題を明らかにすることによって、親と保母や教師の態度を改めることの可能性が期待できるであろう。

親・保母・教師などの子どもに対する態度については、今まで、放任型・干渉型・過保護型・民主型の、四つの型について論ぜられることが多かった。これは、たしかに一つの立場である。しかし、このような見方は、具体的に子どもに接するときの態度を一般的に論じているのであって、子どもに対して何を求めて何を求めないかという具体的な内容を論じているのではない。

そこで、今われわれが問題にしようとしているのは、子どもに対する接し方の四つの型についてではなく、子どもに対して何を求め何を求めないかということについての、父親、母親、保母や教師の三者間にみられる意識のずれについてである。このことを問題にしようとする理由は次のとおりである。

子どもに対する態度(放任型・干渉型・過保護型・民主型)について、父親、母親、保母や教師の三者が一致したとしても、子どもに対して何を求め何を求めないかという具体的な内容に一致がなければ、教育上好ましくない結果をもたらすことが想像される。このことについて、教育論としては今までも不問に付されているわけではない。しかし、三者の間に不一致があるのか、また、あるとすれば何がどのように不一致なのかということについては、今までほとんど明らかにされていない。

以上のことにかんがみて、この研究では、幼稚園児をもつ父親と母親と、それらの幼児の学級担任である幼稚園教諭の三者間にみられる教育意識のずれを明らかにすることを目的としている。なお、この研究では、三者間の教育意識のずれを問題にするものであって、その内容についての価値判断には触れないことにする。